

【明石市】 認知症施策全体図

早期支援の推進

- 認知症早期支援事業
- 初期集中支援事業
- 精神保健相談

認知症に対する 理解の促進

- 認知症サポーター、キャラバンメイト養成講座
- 認知症ケアパスの活用

地域支援体制の 充実

- 見守り体制の充実
- 家族介護者への支援
- 認知症高齢者や家族の居場所参加促進

若年性認知症施策 の推進

- 研修の開催等、若年性認知症の周知啓発
- 若年性認知症家族会等への支援

【市町名】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号< ⑧ > 標題

「男性介護者のかたり場」の立ち上げ支援

○ 活動のきっかけ

市内で認知症の妻と男性介護者の死亡事案があった。亡くなる1か月前に相談機関へ来所されていたが、焦燥感や介護の困難感の表出がなかった。また、日々の認知症カフェへ関わる中で「物忘れを治すにはどうしたらいいのか」と男性介護者の方が話されており、男性介護者の特性を理解し、支援をしていく必要性を感じた。

男性介護者の割合は年々増加している一方、身内や専門職に対し支援を求めにくく、閉鎖的な介護生活により孤立しやすい。また、思いや言葉の表出が少なく、助言や支援が入りにくい傾向にあり、時に虐待に発展することもあることから、男性介護者の会を立ち上げ、介護の悩みを相談し合うことで孤立を防ぎ、様々な知識を学び、必要な支援者とつながる機会を作ることとなった。

【男性介護者の実態についての調査】

- ◎平成28年度国民生活基礎調査より（内閣府）
被介護者から見た介護者の続柄
同居している者 58.7%
→うち男性介護者 34%
...核家族化・女性の社会進出により割合は年々増加
- ◎高齢者虐待との関係（平成29年厚生労働省）
被虐待者で要介護認定者84.4%
→うち認知症日常生活自立度Ⅱ以上 71.7%
虐待者の続柄：
息子39.9%、夫21.6%、娘17.7%、妻6.4%



開催にあたってのスケジュール

○ 活動経過

実施月	実施内容
R3.2月	<ul style="list-style-type: none">・ 企画書作成・ 市内で実施している男性介護者向けサロンの状況について聞き取り調査を実施。・ 市高齢者総合支援室の理学療法士へ講師派遣依頼・ 企画運営会議の実施
3月	<ul style="list-style-type: none">・ 啓発チラシを作成し、市内地域総合支援センターへ広報し、募集開始・ 第1回目男性介護者のかたり場を開催



開催内容や工夫点

**男性
介護者の
かたり場**

介護の悩みを語り合い、みんなでゆっくり進む場所

日時 **3月16日(火)** 午前**10時~11時30分**

場所 明石市立総合福祉センター 3階大会議室

定員 10名 参加費 **無料** 申込期限 3月12日(金)

内容 ミニ講座と情報交換会

対象者 ご家族の介護をされている方やされていた方で男性の方

お申し込み方法
お電話にてお申し込みください

【お申し込み】
社会福祉法人 明石市社会福祉協議会
明石市貴崎1丁目5番13号
TEL : 078-924-9105 FAX : 078-924-9109

(主催) 明石市社会福祉協議会 (協力) 明石市福祉局高齢者総合支援室

【内容】

- ①会の目的や基本ルールの共有
- ②自己紹介（名前住んでいるエリア、参加した経緯、好きな動物）
- ③ちょっと一息講座（理学療法士）
- ④みんなで語る時間

【開催にあたっての工夫点】

- ・市内で男性介護者サロンを開催していた経験者に男性介護者の特性などについて聞き取りを行った。
- ・スタッフや講師等、できる限り男性で対応し、気持ちや悩みを表出しやすいよう配慮した。

【開催しての感想や効果など】

- 認知症の妻を介護している方3名とOB2名、付き添いの民生・児童委員、合計6名の参加があった。
- 男性のみの会ということもあり、介護の話を自らされる方が多かった。
- 女性が中心の会では、介護の大変さの共感と具体的な介護方法のアドバイスが中心だが、男性介護者の会では「なぜこうなったのか？」という夫婦間の感情と認知症の原因について理解をして受け止めていこうという思いが共有されていた。
- 専門職はすぐに「困っていることの解決」を支援しようとするが、まずは介護者が認知症をどのように受け止めているのかを把握し、「気持ちに寄り添う支援」を忘れてはならないと改めて感じた。



今後の課題

- 第1回目は、市内で開催していた男性介護者が集まれるサロンなどがコロナウイルスまん延防止策として中止をしている中での開催であったが、参加された方から後日「もっと話したかった」というご意見を頂いた。男性介護者が集える場所が求められている一方、介護者が病気になると認知症の本人も在宅での生活が難しくなる可能性があるため、今後開催にあたっては、慎重な判断と、コロナウイルス感染防止のため十分に配慮をしていく必要がある。
- 認知症疾患医療センターである明石こころのホスピタルや、社会福祉法人からなる「法人連絡協議会」とネットワークを組んで開催していくなど、**多機関と連携した取り組み方などを検討する必要がある。**
- 「男性介護者支援ネットワークひょうご」のつながりを活用し、会の運営を模索していく必要がある。

最後に・・・

コロナウイルスの影響もあり、社会とのつながりが減少していく中で、男性介護者が思いを表出し悩みを語り合える場が必要とされているということを活動を通して感じた。身近な地域で認知症のことが相談できる場を増やしていけるように、地域で身近な相談機関でもある、**地域総合支援センターと情報共有しながら活動をしていきたい。**